

造 影 剤 の 説 明 書

検査当日、あなたが受ける検査では、造影剤という検査薬を使用する可能性があります。この造影剤を使った検査を受ける可能性のある方には、あらかじめ「検査における造影剤投与に関する同意」をいただいております。以下の項目をお読みになった後に、ご不明な点を主治医または放射線部の担当医に質問し、納得されましたら同意書に署名をしてください。

1. 造影剤とは何ですか？

画像診断にあたって情報量を増やすために画像コントラストをつける検査薬です。通常、静脈内に投与します。CT検査では、水溶性ヨード造影剤が使われます。腎機能が正常であれば、注射後6時間で約90%が腎臓から尿として排泄され、やがて全てが体外に排出されます。

2. 造影剤を使う利点は何でしょうか？

静脈内に注入された造影剤は、血管を介して全身の臓器に分布します。したがって血管腔の状態、臓器の血流状態、および病変での造影剤の分布がわかり、画像診断上、重要な情報となることがあります。

3. どのような人にも造影検査はできるのでしょうか？

アレルギー体質の方は副作用を生じる可能性が約3倍多いといわれ、なかでも喘息の方は約10倍といわれています。また、CTの造影剤を使うと腎機能を更に悪化させることがあります。

次に該当する方は造影検査の際に主治医と放射線部の担当医にお知らせください。

A. 以前、造影剤で具合が悪くなったことがある。

B. 本人または血縁者に喘息やアレルギーがある。

C. 腎臓の病気がある。

4. 造影剤にはどのような危険性があるのでしょうか？

最近では、副作用の少ないものが開発されて用いられていますが、それでも全く危険性をなくすことはできません。軽微な副作用を含めて、約3%の患者さんに何らかの副作用が生じます。造影剤の副作用には検査中や直後に生じる即時性のものと、検査終了数時間から数日後におきる遅延性のものがあります。

A. 即時性副作用

ほとんどは気分が悪くなったり、吐いたり、じんましんが出たり、かゆくなったりといった軽いものです。しかし、まれに冷や汗が出たり、胸が苦しくなったりすることがあります。また、1万人に4人程度の割合で、ショックなどの重篤な副作用を生じる可能性があります。極めて稀ですが、死に至る報告もあります。

B. 遅延性副作用

まれに、検査終了数時間から数日後に身体がだるくなったり、頭痛がしたり、じんましんなどが出ることがあります。

5. 緊急時の対応について教えてください。

A. 即時性副作用

検査中は放射線部の担当医と看護師が常にあなたをみていますので、何かあれば至急対処します。
また、獨協医科大学日光医療センターには、院内 119 番とでもいうべき救急体制があり、より重篤な予期せぬ事態に対し、専門医がかけつけ処置を致します。

B. 遅延性副作用

検査終了数時間から数日後に先に述べたような症状や、他に何か異常があらわれた場合には、すぐに受診されている診療科、時間外・休日の場合は救急外来までご連絡下さい。その際、いつどのような検査で造影剤を注射したか忘れずにお話ください。

以上の説明に納得していただけたら、同意書にご署名をお願い致します。

連絡先 獨協医科大学日光医療センター

科

電話 0288-76-1515 (代表)